

時 栃 報 幼

題字 / 栃木県知事 福田富一氏

第 159 号

令和7年3月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人 / 齋藤 君世 ●発行人 / 船田 弘和

■栃幼連ホームページ <https://www.youchien.or.jp>



令和六年度を振り返って

栃幼連理事長

船田 弘和



今年度は、関東地区大会の実施県として、加盟園の先生方に多大なるご理解とご協力を頂きました事に對し、心から感謝申し上げます。計画の段階で、小倉教研委員長から「栃木大会は記憶に残る大会にしましょう」と提案をいただき、全体のビジョンがなんとなく思い浮かんできたことを思い出します。このことを察してか、事務局をはじめ各委員会の先生方の、調和と協同が、栃木県らしさあふれる大会を創造し、参加された先生方から称賛の声を沢山いただいたことを、実施運営に携わった全ての先生方と素直に喜び合うことが出来ました。

この他にも各委員会の先生方には、並行して計画通り研修・研究活動を実施いただき、栃木県の教育・保育の質の向上、各園の運営の安定に寄与する振興活動が出来たと感じております。二月に開催した栃木県幼稚園教育研究大会では、知事をはじめ多くのご来賓参列のもと、永年勤続及び教育功勞の表彰を行い、参会の先生方と功績をたたえあえたことで、今年度も何とか各種事業が効果的に実施され、年度末を迎えられたことに安堵しております。

急激に進む少子化の中、多様な価値観が、家庭環境を複雑化し、「子どもがまんなか」を実感できない、愛着不足がもたらす、支援を必要とする子が増え、先生方の保育環境に新たな負担が増えている現実があります。こども家庭庁もその存在効果を未だ実感できていないと思われる方も多いと存じます。

こんな時代だからこそ、設置者・園長研修会など、多くの先生方が集い、思いを共有できる機会を委員会の先生方と充実してまいりますので、ご期待ください。

今年度お力添えいただきました事に感謝申し上げます、来年度も一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和六年度を振り返って

こども政策課長

天海

則仁



實連合会会員の皆様には、日頃より幼児教育の振興に御尽力いただき、とともに、本県子ども・子育て支援行政の推進に御理解・御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

こども政策課長として二年目の令和六年度を振り返りますと、国や県の子ども・子育て支援施策等に新たな動きがありました。

まず、国においては、「こども未来戦略」に基づいた施策が展開され、幼児教育・保育の質の改善に向けた職員配置基準の改善や、全ての子育て家庭を支援する「こども誰でも通園制度」の創設等が行われました。特に、「こども誰でも通園制度」については、令和八年度の本格実施を見据えた試行的事業が全国で行われ、県内でも五市町の園において実施されてきたところで

す。

一方、県では、令和五年八月に打ち出した「とちぎ少子化対策緊急プロジェクト」に基づき、結婚、妊娠・出産、子育ての各ライフステージに応じた切れ目のない支援を展開して参りました。五月には、県の各施策に意見を反映するため「栃木県こどもモニター」を募集しアンケート調査を実施、十月には、より多くの子育て世帯の経済的負担を軽減するため、県内全ての市町

において所得制限を設けずに「第二子保育料免除事業」を開始いたしました。加えて、本県の子育て施策を様々な場面で知っていただけるよう、各施策を題材にしたショート動画を今年一月から公開するとともに、県全体で「こどもを抱きしめて育む」、そんな温かく優しい気持ちで満ちあふれた県にしていきたいという思いを込め、キャッチフレーズ「こどもぎゅーっとちぎ」とそのロゴマークを作成いたしました。

また、今年度は、現行の「とちぎ子ども・子育て支援プラン」の計画期間終了に伴い、こども大綱やとちぎの子ども・子育て支援条例の理念を踏まえた、新たな計画の策定を進めてきました。令和七年度からの五年間は「栃木県こどもまんなか推進プラン」に基づき、本県において「こどもまんなか社会」を実現するべく、全てのこども・若者の健やかな成長と将来にわたる幸せを支援する取組や、希望に応じた結婚、妊娠・出産、喜びのある子育てを支援する取組を着実に進めて参ります。

今後とも、次の時代を担うこどもたちが、夢や希望を持って健やかに成長できるよう、幼児教育の振興や子育て環境の更なる充実に努めて参りますので、貴連合会及び会員の皆様には、一層の御理解と御協力をいただきますようお願いいたします。





第71回 栃木県幼稚園教育研究大会

期日 令和七年二月八日(土)
会場 栃木県総合文化センター
(メインホール)

参加 六百五十八名

内容 「開会式」
大会テーマ

「一人ひとりの『こどもがまんなか』をまもる質の高い幼児教育を」
「社会全体でつむぎ未来へつなぐために」



令和六年度の栃木県幼稚園教育研究大会は、今夏の第三十七回全日私幼連関東地区教員研修栃木大会の開催により令和七年二月に開催された。

県内各地から約七百名の教員が参加した。また、祝辞をいただいた福田富一栃木県知事や中島宏栃木県議会副議長をはじめとする多くの来賓にご臨席を賜った。



開会式終盤では、関東地区大会で県内外の先生らとともに歌った「先生」を再び斉唱した。舞台上のスクリーンに映された映像と歌詞を見て、目を熱くしながら歌っている姿が見られた。

表彰

幼稚園教育振興功労者

認定こども園岩舟幼稚園
理事長・園長 堀 昌道 先生

永年勤続表彰者

五十年表彰者	五名
四十年表彰者	五名
三十年表彰者	十二名
二十年表彰者	四十六名
十年表彰者	百二十八名

永年勤続表彰者の代表者は、認定こども園大平みなみ幼稚園の小森谷晴江先生が務めた。



第71回 栃木県幼稚園教育研究大会 公演

内容 「たにぞうのみんな繋がる あそび歌」

講師 谷口 國博(たにぞう)氏

講演会の後に行われる予定であった公演会は、講師の事情により前後を入れ替え、先に実施となった。綴帳があがると、舞台上に「となりのトトロ」の風景が広がった。平出幼稚園の園児たちが製作したもので、登場人物やバス停などの作品が舞台一面に並べられ、特にネコバスは迫力があり歓声が上がった。



そんな中登場したたにぞう氏は、スタートから軽妙なトークで参加者を引きつけた。まずは「おはよう」の曲で徐々に参加者が盛り上がり、「きつつきさん」では隣の人とリズムよく手を叩き合ったり保育士ながらテンポよく楽しく活動できた。そして「バスにのって」が始まるとまた歓声が。今回はCDとは違うギター一本での生演奏であり、いつもとは雰囲気やリズムが違うアレンジがなされていたものの、そこはいつも元気な先生たち。すぐリズムにノリ、合間にはウェーブへの対応や、年齢別に声出しをするなど、たにぞ



う氏にどんどん合わせる先生たちに、日頃の保育の様子が表れているようだった。ここで持ち時間のおよそ半分を消費したが、たにぞう氏からすれば大分時間を使っただけで、ここからは普段からたにぞう氏と共に活動しており、よしおお兄さんの振り付けも担当したりかちゃん先生も登場。速度を上げ「しゅりけんにんじや」や「かわいさくらんぼ」のチェリービーム、「ダジャレを言うのはだれじゃ!」でダジャレを言いまくったりと、十分の間で動いて踊って四曲を披露してくれた。

終盤は、少しトーンダウンしてたにぞう氏の保育観を語りはじめた。保育とは、先生の好きなのが表れ、それが子どもたちに伝わる。そして話上手は聞き上手というが、自分から話せば相手も話してくれる、とも語り、「こどもたちとないたりわらったり」を披露してくれた。「元気いっぱい」に始まった公演会の終わりは少ししみりとしたが、ここはたにぞう氏。「ランバ・ポーン」でアンコールに応え再登場して大盛り上がり。退場前に、先生たちに「こんな仕事は他にない」と激励をして幕を閉じた。

第71回 栃木県幼稚園教育研究大会
講演 演 会

テーマ 「幼児教育とウエルビーング」
「すべての人が幸せに生きるために」

講師 EVO L株式会社
代表取締役CEO

前野 マドカ氏

人は幸せになるために生きている。先生が楽しく元気に子どもたちに向き合っていたら、子どもも幸せになる。幸せは自分で決める。ご飯が炊けるとき、コーヒーの香りを嗅いだとき、自分がどんな時に幸せを感じるかを知っていることが大切だ。

第四期教育振興基本計画やことも大綱でも、将来にわたって幸せな状態（ウエルビーング）で生活を送ることがができる社会を目指している。

健康診断を受けるように、できれば職場のみんなで幸福度診断を実施するとよい。そうすることで、お互いの良いところが見えてくる。人は太古から、身を守るために嫌なところや苦手なところに目が行くようになってきているので、お互いの良いところが見えてくるだけでも先生方の状態が良くなり、人間関係がうまくいくようになる。アメリカの研究によると、幸福感の高い社員の創造性は三倍、生産性は三十一%も上昇する



という。

「金、モノ、地位」などの人と比べられる財による幸せは長続きせず、「安心、健康」などの心による幸せは長続きする。心の幸せのため力ギは「自己実現と成長（強み、主体性）」「つながりと感謝（利他、多様性）」「前向きと楽観（チャレンジ精神）」「独立と自分らしさ」（自分軸）の四つである。このウエルビーングの四つの要素をもとに、ありがとうカードを子どもたちに渡したり、言葉を可視化することで子どもたちがその言葉に感化され学級が安定し学力が向上したりと、学級経営に四つの要素を活用し効果を実感している先生方がいる。

ウエルビーングを作る心の栄養素である幸せなコミュニケーションを図るためにも、名前を呼び、自分から笑顔で声をかけよう。相手の良い点に目を向け、いつもワクワクしていよう。感情は自分で作っている。自分の良さを知り「私は大丈夫」と、とことん自分を信じるのが大切である。

第71回 栃木県幼稚園教育研究大会 写真集





研修会だより

設置者・園長研修会

期日 令和七年一月二十四日(金)

会場 ホテルニューイタヤ(天平の間)

参加 八十九名

内容 「お笑いの世界で学んだ強い組織を生み出す人材育成術」

講師 放送作家 漫才作家 村瀬 健氏

放送・芸能の世界で生きてきた感じたことは、「芸人は話がかうまいだけでは売れない。おもしろいだけでは生き残れない。」長くこの世界で活躍できるのは、「人間関係をうまく作れるような、コミュニケーション能力が強い人」と言い切る。他人に慕われ信頼させる人間を育てる。これが人材育成の基本である。



人材育成の鉄則、その一つ目は、「価値観の違いを受け入れる」こと。現代の若者が求めているのは、「出世・給料」よりも「居心地と存在価値」である。大切にされている、気にしてもらえている、見守られている、という実感が持てるのが、何よりの価値である。そのことをまず認め、受け入れることが大切である。「いつもあなたのことをきちんと見ています」というメッセージを送り続ける。名前を呼びながらあいさつをし

たり、会話をす。仕事中に進んで声をかけに行く。声をかけられたり、ほめられたりすることで「見てもらえている」「認めてもらえている」という信頼感を得ることができる。



二つ目には、「自分の方が正しい・偉い」という価値観を捨てる」こと。相手に対して肯定的に接することである。まず現場を見る。仕事の過程を認めた上で、ことばで注意する。結果だけでは叱らない。「ちよっと待って、貸して、見本見せるからよく見て。やってみて。せつかく頑張ったんだから無駄にするなよ。」でできれば途中で笑顔を交えながら。

三つ目には、「小さなことに対しても、ほめて感謝する」。ほめることは甘やかすことではなく、ほめられないと人は伸びない。

また、率先して感謝や謝罪の言葉を口にできる者に人は付いてくる。いい現場(会社)はトップが素直に謝れるところ。そこに集まる人材が組織を強くする。

「これらのことは、幼稚園など教育現場という組織でも十分生かせること。少しでもヒントになることがあるのなら、ぜひやってみてください。」との言葉で講演は閉じた。

教育実習の在り方研究部会

期日 令和七年二月六日(木)

会場 コンセーレアイリスホール

参加 四十三名

テーマ 「教育実習の受け入れについて考える」

講師 宇都宮共和国大学 教授 高柳 恭子氏

本研修では、学生と園に對して実施したアンケート調査の結果を用いながら、教育実習における課題の把握や、具体的な改善策についてなど、多角的な視点で教育実習の在り方を考察した。



前半では、教育研究委員長の小倉庸寛先生より、養成校に通う学生(二百四十三名/四百九名)と、県内の幼稚園および認定こども園(百六十園/百九十七園)から回答を得たアンケート結果から見えてきた、学生の実習に対するリアルな声が紹介された。

その内容は、新卒者の採用が増えない要因にも結びついており、教育実習での記録の難しさや、自信がもてなくなった経験が起因していることが明らかになった。また、記録の指導については、写真を使用可能とするか否かをグループで議論する場が設けられた。

一方で、養成校の学生数減少を改善するために、園が小・中学校を含めた地域との連携を深め、幼児教育に興

味を持つてもらおうアプローチも必要であることが述べられた。後半の高柳恭子氏による講話では、実習終了後の学生のつばやきを交えつつ、教育実習が与える園や仕事の印象がいかに大きいかを解説された。

専門的な成長には、学生、初任者、ミドル、ベテラン・リーダーごとに段階があり、「これまでは...」は通用しない。なぜなら、教育要領の改訂、保育者養成における教育課程の改訂により、新しい情報が増え続けているからだ。現場の先生たちが、幼児教育の情報をアップデートしていくのは、当然の課題と言えよう。

教育実習は、組織として取り組むものでもある。指導者が不在でも実習の手続きが継続できて、実習予定を把握しているのが園長だけにならないよう、職員同士の共有形態にも配慮が必要だ。

先生になりたい、先生を続けたいと思うためには、保育の面白さ、子どもの面白さを感じる基本であり、憧れの先生と出会う経験にはコミュニケーションが不可欠である。ゆえに、話しやすい雰囲気の中で、教育実習のあり方を工夫していくことが提案された。



保育には最適解が無いからこそ、省察が必要である。保育終了後に指導者と学生で保育を振り返る時間を持ち、その内容を日誌に記録していくようなアドバイスを求めたい。

瑞宝双光章受章

認定こども園 理事長

石嶋 勇 先生の言葉



栃幼連の理事長として長きに渡りご活躍いただいた石嶋先生。叙勲にあたり、これまでの人生について率直に語られた、あたたかい言葉の数々を紹介したい。

瑞宝双光章を受章した時の気持ち

皇居に向いて拝謁したとき、天皇陛下のお言葉も覚えていないほど頭が真っ白になりました。その顔を拝むだけで胸がいっぱいという状況が正直なところ、生まれて初めての空気に身を置くような素晴らしい経験でした。

人生で大切にしてきたこと

「すべてにおいて謙虚であれ」。これが私の生き方です。心の奥には「すべて内輪にせよ」「背伸びはするな」という母親の言葉がありました。

数多くのお役を引き受けてきた石嶋先生を支えた存在とは

職場においては、先生たちや保護者の皆さま、仲間や同志と言える方たちに支えられながら成長できました。しかし、何と言っても「家族」です。栃幼連の理事長を退任した時、赤飯を炊

いてくれた妻を思い出し、なぜか理事の皆さんの前で涙が出ました。それは、妻や娘たちへの感謝の思いとともに、我慢や寂しい思いをさせてしまった申し訳なさを素直に振り返ったからでした。

心の奥にあった本音

自慢話は苦勞話。今だから言えますが、「楽しい」よりも「苦しみ」や「辛抱する」ことの方が多かったです。ですから、現在の正副理事長や常任理事の皆さんのご苦勞にも心から感謝しています。

これからの幼児教育を担う経営者に向けてのメッセージ

教育も社会も変わりゆく中で、我ががと進んだら失敗を招いてしまうことを強く伝えたいです。下積みを経て、こつこつと努力した道のりを後輩に語れるような人生にしてください。

栃幼連からのメッセージ

晴れの日も雨の日も暑い日も寒い日も、「おはよう」と正門の前に立ち、登園する子どもたちを出迎えてきた姿。どんな時も笑顔絶やさず驕らず、冷静な心で栃幼連を率いてくださった姿に、私たちはどれほど励まされてきたことでしょうか。奥様のひとみ先生にも心より感謝申し上げます。誠におめでとうございました。

「最近心が柔らかくなったのか、どうも感動しやすく、先生や子どもたちのこともおおらかに見守れるようになってきました。」

目を細めながら話した石嶋先生の笑顔の先には、元氣よく遊ぶ子どもたちの姿があった。これからの活躍の隣に、心おだやかな時間が流れることを心から願う。

11/11~12 青年部県外視察研修会

十一月十一日から十二日にかけて、広島県の「広島大学附属幼稚園」と「かえて幼稚園」を視察した。二園とも山を所持しており、園庭の一部として子どもたちが自然の中でダイナミックに活動できる環境が整っていた。また、どちらの園も子どもの主体性を重んじる教育方針であった。



た。広島大学附属幼稚園では、山での活動をすることは最低限のルールを設けたうえで子どもたちを見守り、大きなケガでない限り保護者の理解を得て自由に活動させている。視察三日は、焼きいも作りをしており、子どもたちが火をつける場面も見られた。

かえて幼稚園も同様に、園外での体験活動や自然を活用したプログラムが充実しており、給食の時間には子どもたちが自ら時計を見て行動していた。これにより、子どもたちは自律的な行動を自然に学んでいる。



自然環境の中で自ら考え行動することが、子どもたちの成長にとって重要であることを学ぶ機会となった。



輪島和光幼稚園 復興支援プロジェクトの報告

令和六年一月の能登半島地震と九月の豪雨により、甚大な被害が重なった、能登半島にある羽咋市白百合幼稚園と輪島市の和光幼稚園に対して、栃県から「笑顔」を届けるために立ち上げられたのが「復興支援プロジェクト」でした。青年部有志が訪問したことをきっかけに、十二月には本格的な支援活動まで進めることができました。



急なお願いにも関わらず集まった協力は、二百三十万六千七百五十九円。そこで、一階部分と園庭が汚水に浸かってしまった和光幼稚園には百万円、白百合幼稚園には十万円を義援金として届けることになりました。ケーキ作り、いちご代、交通費等の活動費として四十万円を使わせていただき、余剰金については、今後の継続した支援活動の資金として保管します。

楽しいケーキ作りの時間や、いちごホールケーキのプレゼントは、子どもたちだけでなく、先生や保護者の方も笑顔にすることができました。

本プロジェクトの第一弾を次の笑顔につなげることができれば幸いです。



プロジェクト代表

認定こども園くにや幼稚園 栗原 賢臣

令和7年度私立幼稚園関連予算案

(単位：千円)

事業名	令和6年度 予算額	令和7年度 予算額(案)	概要
1 幼稚園運営費補助金	904,225	618,731	学校法人が設置する幼稚園の運営費に対する助成 (1)園児1人当たり 212,900円(R6 209,400円) 3～5歳 2,303人 満3歳 436人 (2)一種免許状加算分 1,805千円 (3)処遇改善加算分 33,792千円
2 地域子育て推進事業費補助金	105,870	96,700	私立幼稚園及び認定こども園が実施する子育て支援事業に対する助成 (1)子育てランド事業 19,280千円 (2)わんぱく保育推進事業 77,420千円
3 栃木県私立幼稚園振興財団補助金	267,646	267,646	私立幼稚園及び幼保連携型認定こども園の教職員の退職金給付事業に要する経費に対する助成 ・補助率 教職員標準給与額の30/1000
4 特別支援教育費補助金	563,304	546,840	特別支援を要する園児が就園する私立幼稚園及び認定こども園に対し、特別支援教育に必要な経費の一部を助成 学法 784千円/人(国庫) 学法以外 392千円/人(県単)
5 授業目的公衆送信補償金助成費	271	181	授業目的公衆送信補償金制度の活用に対する助成
6 私立学校教職員共済補助金	176,153	186,418	長期掛金について、標準給与額の8/1000を補助
7 栃木県私学団体補助金	6,000	7,000	栃幼連が行う研修事業に要する経費に対する助成 ・補助率 定額(1/2以内)
8 幼稚園緊急環境整備事業費	50,885	46,965	(1)学校法人立幼稚園及び認定こども園が行う遊具等環境整備に対する助成 ・補助率 認定こども園 1/2、左記以外幼稚園 1/3 (2)認定こども園等における研修支援 ・補助率 1/2 (3)認定こども園等の業務体制への支援 ・補助率 1/2 (4)園務改善のためのICT化支援 ・補助率 1/2
9 子どものための教育・保育給付費	12,163,274	12,355,156	施設型給付等に係る市町への負担金及び補助金 ・県負担割合 全国統一費用部分 1/4 (1号園児は地方単独費用部分1/2あり)
10 子育てのための施設等利用給付費	504,199	332,779	私立幼稚園(私学助成)等の利用料無償化に係る市町への負担金
11 一時預かり事業	290,313	290,313	一時預かり事業を実施する市町に対する助成 ・補助率 1/3
12 第2子以降保育料等免除事業費	471,974	1,441,957	認定こども園等に通う児童のうち、第2子以降の3歳未満児の保育料及び第3子以降の3～5歳児の副食費の免除事業を行う市町に対する助成 ・補助率 1/2
13 性被害防止対策設備等支援事業費 ※R6年度で終了	2,300 (R5繰越)	—	幼稚園における性被害防止対策に係る設備等の導入に対する助成 ・補助率 1/2
計	15,920,992	16,190,686	

06

令和7年度予算案の内容について

今年度(令和6年度)、11月の県知事選挙におきまして、皆様には多大なるご支援ご協力をいただきありがとうございました。年度当初から知事選を挟む変則的で見通しのきかない大きなうねりの中で例年通りの調整はととも難しく、その合間を縫っての振興活動となりました。そのような状況下でありながら、石嶋顧問をはじめ船田理事長、そして3名の副理事の先生が各方面で汗をかいてくださいました。その甲斐あって近年、県の各予算が縮小傾向にある中で「栃木県私学団体補助金」(上記7番)の増額の要望が叶ったことは、特筆すべき大きな喜びであり、各園の力強いご支援の賜物と心より感謝申し上げます。引き続き福田知事をはじめ、自民党県連の皆様のご指導を仰ぎつつ、皆々様の更なるお力添えをいただきながら今後も全園一丸となって振興活動を展開して参りましょう!



振興委員長 富川 将



幼児教育センター事業への御協力ありがとうございました。今年度は年次研修の一部に保育所保育士も対象とし、施設類型の違いなく栃木県の幼児教育・保育の質向上を目指して取り組んできました。年次研修最終日の様子を紹介します。

新規採用幼稚園教諭等研修

昨年十二月二十五日に、全日程が終了しました。閉講式の新採者の表情は明るく晴れやかでした。

最終日となる第九日は、講話・演習「指導計画の作成〜明日の保育を考える〜」から、指導助言者の指導の下、日案を作成しました。その後、講話「発達の特性を踏まえる」において、改めて日々の保育を振り返り、幼児期の発達の特性について見つめ、今後の保育に生かす見直しをもちました。

振り返りでは、「毎回、研修の学びを通して自分の保育の振り返りをすることができた。一年目の不安な気



持ちを解消できる機会にもなり、とてもありがたかった。」「主体的な活動としての遊びは、幼児期に最も適した学習方法である」これを忘れずに、明日からも子どもと楽しく過ごしていきたい。「日々の保育の中でどれだけ子どもたちが楽しいと思えるか、そのために自分は何ができるのかを念頭に置いて今後の保育に当たっていききたい。」などの感想が寄せられました。

子どもたちと笑顔で楽しく過ごす姿を期待しております。



幼稚園等教職五年目研修

一月二十九日に、五年目研修の全日程が終了しました。

最終日は、「二つの講話・演習」「指導計画のつながり」「支え合う教職員集団を目指して」を行いました。



五年目ならではの思いや考えを受講者同士で共有し合うことで、園における自身の役割を果たしていることと決意を新たにしていきました。

振り返りでは、「自分の保育を振

り返るよい機会になった。指導計画から保育を振り返り、見直していくことの大切さを再確認できた。」「よい保育につながるよう、職員間で相談しやすい雰囲気作りを積極的に行っていきたい。」「子どもたちの笑顔を大切に、保育者も楽しむ姿勢を忘れずに頑張っていきたい。」などの声がありました。

受講者は、今後の栃木県の幼児教育を支える中核的な存在、園の中心となって活躍する人材です。さらなる御活躍を期待しております。

中堅幼稚園教諭等資質向上研修

一月八日に、最終日を実施しました。今後の栃木県の幼児教育をミドルリーダーとして支えていく四十六名が受講し、全日程が終了しました。

カリキュラム・マネジメントや組織マネジメントを軸に、多岐にわたる視点で、ミドルリーダーの役割を深く考えていく研修となりました。



第六日は、各自が取り組んできた課題研究の報告を行いました。その後、新見公立大学健康科学部准教授加藤由美先生より「教職員のメンタルヘルス」の御講話をいただきました。

た。最後に大豆生田啓友幼児教育センター顧問が「ミドルリーダーに求められること」として講話を行い、「中堅層の役割の重要性について」、「みんながワクワク、子どもの主体性を大切にしたい保育」について再確認しました。

一年間、それぞれの課題研究や各園における園内研修の企画・運営役として取り組み、資質向上を図ることができました。先生方の今後の益々の活躍に期待しております。

令和六年度文部科学省中央協議会

今年度は十一月五日及び六日に開催されました。栃木県を代表して、十三名の先生方が参加、うち四名の方が現地参集で参加くださいました。

那須烏山市立つくし幼稚園 深津 幸子先生
那珂川町立ひばり認定こども園 佐藤 有加先生
認定こども園ふたば幼稚園 吉田 浩美先生

★次年度の研修申込みについて

「幼稚園等教職五年目研修」と「中堅幼稚園教諭等資質向上研修」は、三月十日発送の受講者の照会文書より報告してください。

それ以外の研修は、「幼児教育センター研修案内」のQRコードから申し込んでください。

★受講の記録について

三月十日に次の研修等について、発送しました。

- ・教育課程研究会
- ・研修当日あるいは最終日に配布できなかった研修

御確認ください。



こども政策課だより

各種提出書類について

運営費補助金（全体分）

補助金実績報告書の提出期限は、二〇二五年四月中旬（予定）です。公認会計士等の監査日程の都合等により、提出期限までに二〇二四年度決算が確定しない場合であっても、仮決算の段階で県に実績報告書を提出し、決算確定後、再度提出されるようお願いいたします。

運営費補助金及び教材費等補助金特別補助（わんぱく保育推進事業・子育てランド事業）

事業実施報告書の提出期限は、わんぱく保育推進事業及び子育てランド事業ともに二〇二五年四月上旬（予定）です。

二〇二四年度決算書及び二〇二五年度予算書の提出について

二〇二四年度決算書及び二〇二五年度予算書の提出期限は、二〇二五年六月末日です。四月上旬に、決算書等（標準様式）の電子データを別途メールでお送りします。

資産総額の変更登記届

二〇二四年度決算に伴う資産総額の変更登記は、寄附行為で定める期

限（五月末日又は六月末日）までに、期限後一ヶ月以内に登記届を提出してください。

認定こども園運営状況報告書

認定こども園法第三十条等の規定に基づき作成をお願いします。提出期限は二〇二五年五月下旬（予定）です。（園児数調査のみ五月上旬（予定）です。）

※各種提出書類の詳細については、別途送付する通知文を参照の上、期限内の提出をお願いします。

園舎の耐震化の促進について

東日本大震災以降、園舎の耐震診断の実施・耐震化がより一層求められています。

本県の私立幼稚園（幼稚園型認定こども園を除く）の耐震化率は、令和五年四月一日現在で七十六・二%と全国平均九十一・六%と比べ、低い数値となっております。

令和七年度以降も引き続き、国庫補助制度の活用による耐震化を促進したいと考えておりますので、耐震化（建替・補強等）を予定する場合は、早めに御相談くださいますようお願いいたします。

今後とも、園舎の耐震化に取り組んでいただき、安全・安心な教育環境の整備をお願いします。

令和七年四月～六月までの事業予定

4月3日	①新規採用幼稚園教諭等研修(集合研修) ※保育所保育士研修(新規採用)
4月16日	新採教諭研修(宿泊研修・代替研修 資質向上研修(子育て支援))
5月13日	幼稚園等教職5年目研修
5月14日	幼稚園等教職5年目研修
5月19日	0・1歳児研修
5月22日	栃幼連定時総会(令和6年度決算総会)
5月23日	幼小接続推進者研修
6月4日	中堅幼稚園教諭等資質向上研修
6月5日	保育セオリー講座
6月11日	指導助言者説明会
6月12日	全私幼退団協議会総会(宮崎県)
6月13日	公開保育研究会(宇大附属幼稚園)
6月14日	教育課程研究会
6月19日	②新採研公開保育(宇大附属幼稚園)
6月20日	保育テクニカル講座
6月23日	幼児期の特別支援教育研修
6月26日	②新採研公開保育(宇大附属幼稚園)
6月27日	合同就職説明会
6月29日	※は幼児教育センター事業

総会予告

令和七年度 栃幼連 定時総会

(令和六年度 決算総会)
令和七年五月二十三日(木) 会場：コンサール

弔事

●佐野市 葛生幼稚園
前理事長 園長 清水 京子 先生

令和六年十二月十三日 逝去
●真岡市 真岡杉の子幼稚園
元事務局長 川崎 ミツエ 先生

令和七年一月三日 逝去
●栃木市 認定こども園
おおひらふじ幼稚園
元事務局長 町田 操子 先生

令和七年二月五日 逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

本園には四本の大きな桜の木があります。創立時に植えられたので、樹齢は五十年になります。そのうちの一本はクビアカツヤカミキリの被害を受けて枯れてしまったので、止むなく伐採することになりました。クビアカツヤカミキリは名前の通り真っ赤な首が特徴です。この虫に寄生されると、幼虫が樹木の内部に入り込み、樹木の内部を食い荒らして樹木を枯らせてしまいます。桜、桃などで被害が大きいようです。佐野は桃や梨などの果樹も多く栽培されていますので、被害も多いと聞いています。

本園の残りの三本も勿論被害を受けているので、薬を注入したり、ネットを被せたりして被害が少なくなるような限りの対応をしています。かなりの樹齢なのでいつ枯れてもおかしくない状態です。いずれ園庭に新しい木を植えることになると思います。卒園式や入園式などの節目に桜は大事な存在なので、桜の木で被害にあわない種類があればいいのですが。

(認定こども園佐野みのり幼稚園)

高瀬 恵